

紅葉の有馬ハイク 32人が楽しい一日 ガイドボランティアの協力で

有馬温泉を巡る「第3回北区の歴史の道ハイク」が2017年11月20日、32人が参加しておこなわれました。参加者は2班に分かれ、グループ〈わ〉の「有馬観光ボランティア・ガイド」の奈良さん（生環18）、樽井さん（国際15）の案内で、真っ赤に色づいた紅葉を愛でながら約2時間、有馬の湯めぐりを楽しみました=写真⑥。

温泉の歴史や名所、泉源などについて、お二人の説明に耳を傾けながらの散策は、「有馬観光ガイド」の活動ぶりを目の当たりにするいい機会ともなりました。

瑞宝寺公園では燃える紅葉を満喫。散策を楽しんだ後は自由行動。銀泉、金泉に入湯するグループ、湯元坂で土産店をひやかすグループなど、それぞれ有馬の湯の雰囲気を楽しんでから帰路に着きました。入湯組は、野見喜昭委員からプレゼントされた太閤の湯の招待券が大いに役立ちました。



多くの参加者から「有馬温泉には何度も来ているが、これまで知らなかった路地や裏道を歩き、新たな温泉の魅力を発見することができた」とのうれしい感想を聞くことができました。

次回のハイクは、来春4月に北区を貫く三つの歴史街道「徳川道・天王谷越道・牛の背-再度道」から、神戸の発展に貢献した人達が眠る「神戸市立外人墓地」を巡るコースを計画しています。

（ハイク担当・木田育義）

有馬観光ガイドが心していること

奈良正明（生環18期）

第3回「北区歴史の道ウォーキング」に、私も有馬観光ガイドボランティアにご用命頂きありがとうございました。参加できなかった方は、ご親戚や遠来のご友人などのご案内に、是非私どもをご活用ください。「目からウロコ」に間違いありません。

ここではガイドを担当する私が「ガイドボランティアに携わる時に心していること」について記してみます。まず「地域密着と地域の活性化に寄



与したい」。どんなに高度な歴史観や知識を持っていても、地域の方と遊離しては意味が無く、「お客様・旅館・商店・住民等の方々に必要とされるボランティアでありたい」と。

私達は「有馬で、お客様に誰よりも先にお会いする立場」にあります。その姿勢・態度は非常に厳しいものとの覚悟が必要で「ご案内させて頂く」姿勢は崩せません。

また、ガイドとしての自身を常にブラッシュアップし、他所のガイドの研究はもちろん、有馬温泉の歴史に関わる現地を訪問し直接肌で感じるなど、ためまぬ努力が必要です。

私達の活動は、大きく分けて「立ち番」と「まち歩きガイド」（写真）があります。立ち番は8月・2月を除く土・日祝日に、2人態勢で有馬温泉にお越しのお客様に、旅館・駐車場・各種施設など諸々のお問い合わせに対応しています。

まち歩きガイドは、お客様のご予約に基づき、主として「歴史コース」を基本にご案内しておりますが、個々のご要望にもお応えしています。

晩秋の里山楽しむ かがやきの森で自然観察会

かがやきの森（北区小倉台）で11月5日、秋の自然観察会が開かれ、赤や黄色に色づく晩秋の里山を楽しみました。参加者はスタッフを含め17人。道満俊徳会長や谷口さんの説明で、ここに生息している植物の種類や特徴を勉強した後、展望台へ。付近の景観や丹生山を一望しながら、山田道や有馬道の歴史を偲びました。

里山再生の大切さ、日ごろの作業、環境省の里山500選に選ばれたいきさつの説明には皆さん熱心に耳を傾けていました。木を切ったり、堆肥を



触ったりする体験もあって参加者は満足そうでした。「ここは住宅近くなのに、多くの植物が観察できてよかった」との声も数多く聞かれました。

＝写真は、スタッフから説明を聞く観察会参加者



「ファイト・ファイト」と盛んに声援が飛んでいました。私たちスタッフも、ゴール付近で懸命に走ってくる子どもたちを迎え、元気を貰った一日となりました。

今年も北区婦人会連合の皆さんによるスープ餃子2000食分の炊き出しがあり、選手やスタッフは身も心も温まることができました。今回目に付いたのは、ボランティアスタッフ以外に有野中・大原中・鈴蘭台中の生徒110人が各部署の補助員として、活動していたことでした。北区会からの参加者は次の8人（敬称略）。佐伯義昭、芦田義和、片岡隆夫、伊谷正弘、土井昭政、木田育義、道満俊徳、前田仁子（取材・写真 木田育義）

＝写真はゴール付近で声援を送る北区会のスタッフ

北区会のボランティア8人 ロードレース大会手伝う

第14回北区ロードレース大会が12月17日しあわせの村周回路で開催され、北区会から8人、神戸ぴかぴか隊から8人の計16人がボランティアとして参加しました。早朝の気温は1℃。寒風の中、スタッフは7時半に集合。大会本部や受付の準備をして、8時からエントリーの一次受付と会場内清掃、場内整備に分かれ、競技が終わる14時まで活動しました。

大会は小学1年生と保護者が手を繋いで走る親子ペア走を皮切りに、小・中・高・一般に分かれて22種目、1151人が参加。寒さをふっ飛ばす熱いレースに応援の家族や学校関係者から「ガンバ・ガンバ」

道満区会長は続投 30年度の役員固まる

12月27日に開かれた北区会運営委員会で30年度の役員人事が論議されました。区会長は道満俊徳氏が「他に候補がないなら引き続きやってもいい」と発言。拍手で続投が承認されました。会計の佐伯義昭氏、広報の南形徹氏も留任で承認され、連絡担当のブロック長4人も留任で決着しました。副会長2人は庄田氏・片岡氏とも当日欠席だったので次回1月の委員会で論議することになりました。全役員が固まり次第、正式に発表されます。（南形）